

会議録

会議の名称	平成25年度 第3回西東京市健康づくり推進協議会
開催日時	平成25年12月25日（水曜日） 午後1時15分から午後2時45分まで
開催場所	防災センター6階 講座室1
出席者	石田会長、中澤委員、永田委員、浅野委員、梅田委員、小林委員、桑原委員、栗山委員、手島委員、菊地原委員、横山委員、谷戸委員
議題	西東京市食育推進計画の次期計画の策定について 保健福祉審議会の報告について
会議資料の名称	資料1 「（仮称）第2次食育推進計画」協議資料 資料2 パブリックコメントにおける意見の概要 資料3 「（仮称）第2次食育推進計画」に対する答申書（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会 健康課長より開催挨拶 事務局より欠席者の連絡、傍聴人の確認（0人） 事務局より資料確認</p> <p>2 議事 西東京市食育推進計画の次期計画の策定について 事務局より説明</p> <p>会長： 会議の進め方として、ご意見をいただいた委員から内容についてご説明を伺い、その内容を踏まえ、今日は、答申書の内容確認まで行いたい。</p> <p>委員： 近年の傾向として子供の虫歯は減ってきているが、逆に歯列不正、顎がとても小さい子供が多く見受けられるようになった。昔と違って食生活が固いものからやわらかいもの、よく噛まなくても食べられるファストフード、インスタント麺類などへと変わり、噛むことの絶対量が減っていることによるものと考えられる。 食育の中でよく噛んで顎を発達させることを食育のなかで取り組んでもらいたい。子供の歯列が小さいことに気づいてない保護者が非常に多いことにも驚かされる。食育を通して歯科についてももっと伝えていけたらと思う。</p> <p>事務局： 検討状況に書いた通り、素案の31ページに具体的に記載している。今の意見について</p>	

は歯科医師会のご意見を参考にしながら事業を進めていきたい。

委員：

歯列不正や噛むことについて、噛まないのが原因という意見は一部としてあるが、それ以上にまず食事のバランスからとってほしい。噛め噛めというよりも、全体の構成を食育としては考えた方がいい。柔らかいものもあれば固いものもあり、栄養のバランスのとれた食事を考え、身体の発育にも影響ないように、偏った食事になりがちなのでそれを防ぐようにしたい。家庭の食事が、今コンビニ等発達しているが、バランスを考えて作るという最初のところに戻ったほうがいい。妊娠している間のお母さんの食事から始まっていると言っている。奥の深い問題である。

会長：

市も歯科の保健活動を行っているとのことなので、充実をお願いしたい。

委員：

32ページ2つ目の項目、噛ミング30と成人期のところに書いてあるが、成人期だけでなく全体的にこれを広げていくことは考えているか。例えば、食材一つとっても、子どもにキャベツを食べさせるにしてもロールキャベツでなく千切りのキャベツにして噛まざるを得ないものを出すなど。成人期で謳うのであれば、もう少し全体的に広報したらいいのでは。

会長：

噛ミング30というのは成人期が対象か。

委員：

成人期だけでなく、唾液の分泌は大切であり、ボケ防止にもなるし、幼児期でも学童期でもよく噛むことは大切である。

事務局：

市民の方にお伝えする機会が難しい。言葉の意味を成人期だけに限らず色々ところで使って広めていきたい。

会長：

項目2について説明をお願いします。

委員：

標記の工夫について、市民の方が見たときに一例でも挙げたほうがいいと思って意見した。

事務局：

本文だけ読む方もいるので具体例を挙げていきたい。資料1にあるように記述を整理したい。

委員：

このように変えて頂けるとよい。

会長：
項目3について。

委員：

高齢期になると口腔ケアは重要で、口腔内が不潔になると誤嚥性肺炎を起こして死に至る方が多い。人と接する機会の少ない高齢者が少なくともいることが課題である。高齢者の食育にはこれらを配慮し、食育事業に反映してほしい。テレビで見たが、最新の歯科医療ではごく一部だが歯を抜かなくても治療できるらしいので8020が進むのではないか。また、粗食で老化が早い人が多く、高齢者でも週に1, 2回は肉を食べたほうがいいというのをメディアで見た。

事務局：

計画案の29ページに網羅している内容である。先日、市の事業で8020の表彰があったが、80歳で歯が20本ある方が会場に入りきらなくらい来られた。これからも積極的に広報してやっていきたい。

会長：

高齢者の中でも寝たきりの方、脳梗塞の後の方は口腔ケアができていない。

委員：

肺炎にもなりやすいし、糖尿病にもなりやすいと聞いた。

会長：

口腔ケアの問題を食育とからめてどうか。

委員：

誤嚥性肺炎の原因は摂食して飲み込むときに食道と気道に分かれるときに筋肉の動きが落ちてきて気道にはいってしまうのが原因であって、一概に口腔が汚いからではない。

委員：

誤嚥を防ぐ運動もあるとメディアで聞いた。

委員：

何故誤嚥性肺炎が起こるかの確に判断して原因を究明しないといけない。口の中をきれいにするだけでなく飲み込みがちゃんとできているかであり、そのためには嚙めるか嚙めないかという歯の健康にも関わってくる。虫歯がなく、入れ歯もしっかりあっているかとか。

会長：

市民に周知徹底すべき。また、高齢者も肉などの高タンパクを食べるべきだ。栄養のバランスをとるためにも良質なたんぱくである肉食は必要。

事務局：

32ページ、3の高齢期における口腔の健康保持をご覧いただきたい。

会長：

次にパブリックコメントについて、行政から説明をお願いします。

事務局：

資料2に示したようにパブリックコメントは8件で、多いのは食の安全安心についてであった。項目8の記述を変えてほしいという意見では記述を整理した。それぞれの事業の充実の要望なのでそれぞれ庁内で調整が済んだものを案内している。

会長：

放射性物質のことについては行政は具体的に何か考えているか。

事務局：

具体的な取り組みとしては、食材の検査をして市ホームページに掲載している。

○会長：

市が測定している？一般の食材は産地で測定？

事務局：

給食食材は市が測定している。

○会長：

パブコメは取り入れている。放射性物質のところだけ変えたということによろしいか。次に答申の内容について協議していく。答申案を読んでもらいたい。

○事務局：

資料3 答申案説明

会長：

策定要旨と計画案をもって答申としたい。最終的にはこの案を正式な食育計画にしたいが、ご意見あるか。内容は国が策定したものを基にしており基本的な方針は国と同じになっている。個々に細かい点が西東京市独自のものになっている。

委員：

策定要旨(3)の食の説明が計画の中にはどこに盛り込まれているかわからなかった。(4)の「食育の環(わ)」というのは地域で取り組みましょうというところを指していると分かったが、(3)はどのへんに書いてあるのか。

事務局：

調べさせてもらいたい。

会長：

本文に内容が書かれていない。突然出てきているので整理してもらいたい。

委員：

高齢者のところが簡単すぎる。男性の基本料理教室があったが、前回と文言が違う。

事務局：

男性の基本料理教室の参加者は実際は高齢者が多い。一般には対象を限定していないので28ページの、対象者に応じた料理講習会ということにして、男性の料理教室を前に出す前プランを見直した。

委員：

男性のボケの防止にもなるし、妻の負担も取れ、家庭の調和もとれるので続けてほしい。

事務局：

介護予防の中には低たんぱく低栄養の防止、食を楽しむ機会の提供、孤食の問題があるので地域の方々と食べる機会を増やすということなど、ご意見をいただいたところはちりばめられていると思う。

会長：

高齢者向けの料理教室は前にあったのか。

事務局：

男性の料理教室は実際には高齢者の方が多かった。

委員：

料理教室の講師として参加した経験があるが、非常に意識の高い方が多く、教える側も非常にやりがいがあった。奥様が先立たれたり、病気だったりして切実で、熱心な方や、平日なので退職された方が多く参加され、広がっていくといいと思う。市報に載っているから意識の高い方たちは来るが、低い人たちの底上げをいかにしていくか、いろいろな人たちにより広めていくためにどうしていくかが重要

事務局：

開催時の様子の写真やレシピを市のホームページでアップしている。参加者は多く抽選であり、初めての方を対象としている。年に1回、3回コースで20名前後の参加者を見込んで実施している。意欲的な方に自主グループを進めており、卒業生主体のグループが4グループある。意欲的な方々がたくさんいるので知り合いをご紹介してもらってメンバーは増えている。

会長：

申し込み者は多いようなので、今後さらに充実させてくれればいいと考える。

委員：

食物アレルギーに関する事故について、31ページに記載があるか、もう少しこのへんはしっかり重点項目に入れる必要がないか。

事務局：

41ページからの重点事業で45ページにリスクコミュニケーションにおける具体的な記載がある。アレルギーについての記載は31ページだけである。

委員：

インパクトが弱いと感じる。

事務局：

具体的なことを載せてはいないが、子どもを預かっている機関にはそれぞれ実態に合わせたかたちで学習会を行いながら、小児歯科医や学校医からアドバイスをいただきながら各校各園で取り組んでもらっている。実際に大きな事故もあったことから、基本的なところから勉強して見直しをしている段階。施設によってどこを取組むか違うので明記しづらかった。基本的には医師の判断に基づいて取り組んでいる。各事業で取り組む料理教室でもアレルギーがある方への配慮をしている。個々に応じた対応取組みを掲載させていただいた。

委員：

食物アレルギーは食育の中で、緊急性があつて、死につながる問題なので、個々に取り組んでいることをどこかに書いたほうがいい。個別に取り組んでいるならそれをある程度目標として掲げてほしい。

事務局：

見えるように表記していくよう検討する。

会長：

保育園や学童のアレルギーをちゃんと取り組んでいるとどこかに明記したほうがいい。

委員：

アレルギーの方の給食の取り扱いやメニュー表示、代替え食品など計画を立てて、先生と共通理解を図ったりして対応している。今後5年間では評価していけるようになると思う。かなり細かく学校では取り組んでいる。

委員：

アレルギーに関して1クラス何名くらいいるのか。栄養士も大変だと思うが。

委員：

保健所では何人かわからないが、連絡会を通して得た情報では重篤な子どもが一学校3, 4人いる。以前のように牛乳や卵でなく、くだものであるとかアレルギー食材は広がっている。軽いのはもっと多い。学校はチェックしていると確認している。

委員：

栄養士は市に何人いるのか。

事務局：

西東京市では各校に1名配置している。東京都の職員と市の職員とがいる。

委員：

それならば安心できる。

委員：

給食の放射線は具体的にどうなっているか。

事務局：

食材の検査は、調理済み食品の放射線セシウムの検査を輪番で順次、様々な施設の検査を請け負ってもらっている。

委員：

敏感になられているお母様がいらっしゃるから、きちんとしたほうがいい。

委員：

高齢者になればなるほど、嚥下能力が必要。口腔機能の中に摂食嚥下という言葉を入れてみてはどうか。

委員：

障害者も摂食嚥下は必要であり、全体的に摂食嚥下を入れた方がいい。学童期でも脳性まひだと飲み込みが悪く、肺炎になることもある。高齢者だけでなく食育の中の1項目でいいのではないか。食育の計画案は健全に食べられる方を対象にしているようだが、食べられない方はどうするか、というところも少し入れてほしい。健全者を対象としているが、市民はそれだけではない。

会長：

介護予防には嚥下が必要。嚥下が抜けているという指摘であった。今のご意見を参考にして答申案を作りたい。細かいところは会長に一任していただければと思う。1月まででよいか。

事務局：

報告(1) 保健福祉審議会について

会長：

喉頭がん検診と前立腺がん検診は人間ドック的な検診であるため、利用者負担はやむを得ない考える。

報告(2) その他についてあるか。

委員：

要望だが、地内地消を進めているが、市役所内の食堂ではどのくらい西東京産の食材を使っているか。まずそこからやって公表すると、一歩になると思う。料理教室のことだが、もう少し広くというと場所を探すことになると思う。例えば小中学校の家庭科室を土日どのくらい稼働してもらえるか調べて、土日に地域の人たちに開催するのはどうか。プレママや忙しい家庭に手早くできるメニューを提供し、家族で参加してもらおう。ごはんがあって味噌汁があって西東京市産の旬なものでおかずを作るという基本的な和食を伝えていくのがよいと考える。

事務局：

学童クラブでも家庭科室を使っているのでできない話ではない。教育委員会の施設になるので、打診しないといけない。

委員：

パブコメの親子給食の件で、近くの小学校で作った給食を中学校に運んでいて、小学校が給食のないときは中学校も給食がないが、提供してほしいという声が多くある。給食室が稼働できないのか。また、給食の内容で、栄養の必要項目は満たしているが、20人～30人聞いた中では量が少なくおいしくない、というのが問題になっている。先生に相談したところ、量は若干改善したものの質はあいかわらずのようなので、実態を調べてほしい。

事務局：
教育委員会で検討している。

会長：
検討して改善していくべきものは改善してほしい。

委員：
朝ごはんを食べないで出勤・登校している人が多い。各中学校でコンクールを開いて、朝ごはんの献立表、時短メニュー、栄養のバランスを考えたものを出すのはどうか。

事務局：
平成23年の8月に西東京市合併10周年で、健康都市宣言を出した年に朝食メニューコンクールをした。メニューの紹介を栄養士さんにしてもらった。毎年はできないがイベントとしてやった。これからも普及啓発として大事なので考えていきたい。

委員：
健康都市宣言はしたが、その内容をどう進めているのか常に考えていたが、そういうことをやっていただいたのはありがたい。

会長：
実際に実行するには工夫が必要。市民の方に理解してもらうためによりしくお願いしたい。この内容で答申したい。以上でこの会議を閉会する。